

## 人魂〈ひとだま〉（揖保川町）

ドンデンドン デデデン デンデンデン  
ドドドンドン デンデン ドンデンドン。

デンドコおどりがつづいています。

きょうは非番〈ひばん〉の日か、龍野藩〈たつのはん〉の武士が揖保川に舟を浮かべ、夕方からえんかいです。川面〈かわも〉も暮れ、ホタルが飛びかうころ、いままでなりもの入りのえんかいが、ぴたっとやみました。そして急に怒声〈どせい〉と悲鳴〈ひめい〉がいきりまじり、舟が岸に引き返してきます。さきほどまで、酒を汲〈く〉みかわしていた武士〈ぶし〉たちが、ほんのささいなことからけんかになり、あげくのはてに、ひとりの武士が切り殺されてしまったのです。切り殺された武士の息子が仇打〈あだう〉ちに生まれましたが、その息子も殺されて返り打ちにあったということです。

その事件〈じけん〉があってから、毎年夏になると、人魂が出るといううわさが、村人たちの間にいいかわされるようになりました。無念〈むねん〉をはらすことのできない武士の魂が、成仏〈じょうぶつ〉できずに出るのだろうということです。夏の夜になると、村人たちは、そこへは近づかないようになったということです。そこは、いまの揖保川町半田片島井堰〈いせき〉のあるところだそうです。

